

第 2 回委員会における中間年評価の方法・内容等に対する指摘への対応

発言者	発言概要	対応方針等
橋口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・急傾斜の畑の交付面積の落ち込みが大きい。地目や作目に関する分析が必要。 ・地域で一般的に認識されている集落と、集落協定の範囲がどの程度ずれているのか。集落の住民と、協定参加者の比率やずれについても、調査する必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 5 「地目別・傾斜別交付面積」のとおり。 ・集落協定及び廃止協定に対するアンケート調査において調査する予定。また、資料 6 「農業集落と集落協定との関係」により、農業集落と集落協定の関係を整理。
竹田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・複数集落に跨る協定と、単一集落の協定との比較については、広域化や連携を議論する上で重要。 ・効果分析に当たっては、どういう地域で取り組まれているのかを整理しておくことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集落協定及び廃止協定に対するアンケートにおいて、実態を把握する予定。 ・センサス結果を活用した効果分析の際の参考としたい。
飯國委員	<ul style="list-style-type: none"> ・集落協定で管理できなくなった農地がどうなっているのか。また、管理できなくなりそうな農地について、何が障害になっているのか、明らかにする必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃止協定に対するアンケートにおいて、実態を把握する予定。
原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・集落戦略の作成に当たってどんな苦労があるのか、どういう理由で実現できないのかなどを掘りして聞くことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集落協定に対するアンケートにおいて、集落戦略作成にあたっての課題や課題への対応方法等を把握する予定。また、市町村に対しても同様の質問を実施する予定。